

宮城教育大学 環境教育実践研究センター
第31回 環境教育コロキウム



日時 2005年 8月30日 (火曜日)
11:00~12:00

場所 宮城教育大学 221番教室

演者 青木 淳一 氏
(神奈川県立生命の星地球博物館館長 農学博士)

ダニ学、土壤動物学

主著に「土壤動物学」、「ダニの話」、「自然の診断役—土ダニ」、「日本列島ダニ探し」、「ダニにまつわる話」ほか。日本土壤動物学会会長、日本生物地理学会評議員、WWFジャパン自然保護委員会委員。趣味はテニス、料理、きのこ狩り、梟の置物あつめ。

[受賞]

日本動物学会論文賞 日本土壤動物学会賞 日本動物学会賞 中山賞大賞 南方熊楠賞

演題「ダニとともに50年」



生命誌研究館JT サイエンスライブラリー・青木淳一
「ササラダニの分類から学んだ自然」(写真=田嶋成明)
http://www.brh.co.jp/s_library/j_site/science/web/no41/

より引用・提供

土壌や土壌生物を題材としての環境教育は大変難しい。しかし、これをなんとか簡単に分かりやすくして演者の青木淳一氏はいつも考えている。日本に広まっている土壌動物教材のほとんどは、そんな演者の考案がもとになっているといっても過言ではない。また演者の文章は国語科教科書にも掲載されている。

今回は演者の軽快な語り口で、土壌動物を用いた環境診断にふれながら、演者の学生時代を振り返って、ダニとの長いつきあいがどのようににはじまったかについてご講演いただく予定である。

企画・連絡先：島野智之（宮城教育大学 環境教育実践研究センター）
E-mail: satohis@staff.miyakyo-u.ac.jp

何の研究をしてらっしゃるんですかと聞かれたとき、僕の答えは簡単、「ダニ」です。ダニ？ それでどんな研究を？とお思いになるでしょうね。ふり返って自分でもよくぞと思いますが、ただただダニに向き合っていたらこうなったとも言えます。

大学に入って、さあこれから研究対象を何にしようかと考えたんですが、実はその頃には昆虫以外のことをやろうと思うようになっていたんです。これまであまり人に言ったことはないのですが、実は、いい若者が捕虫網を振り回してるなんて恥ずかしくなってきた。それで昆虫以外の生物を、しかも天邪鬼ですから、誰も見向きもしないようなものを専門に研究しようと思いました。僕は、みんなと一緒にわいわいやるより、人の見向きもしないことをこっそりやってニヤッとするタイプなんです。それに、そんなに能力があると思いませんから、競争相手のいないところでなら、それなりの専門家になれるだろうと思ったのです。

そんなとき、佐々木先生の『疾病と動物』という本に行き当たりました。この本のダニの項目の最後に、実はダニは寄生性のものばかりではなく、森の落ち葉の下に住むササラダニという非常に珍奇な形をしたものがある、種類が多いが日本では誰も研究してないと書いてあったのです。この文章を読んで、「これだ！」って思いましたね。大学3年の時ですが、来る日も来る日も頭の中はそのダニのことでいっぱい、夏になったら早速長野県的美ヶ原にダニの採集に行きました。

そうしたら新種を発見してしまったのです。実はそのころ日本のササラダニは6種しか記録されていなかったというわけなんですけどね。（注：現在750種！）